

日本アジア言語文化専攻

Japanese and Asian Languages and Cultures



当専攻には、「日本語」「日本文化」「アジア言語文化」の3領域があります。
 「日本語」では、近現代の日本語を中心的な対象として、日本語研究を行います。また、日本語と外国語との関わりも重視しています。
 「日本文化」では、日本の伝統文化や近現代文化・社会を対象とした研究を行います。
 「アジア言語文化」では、中央ユーラシアから東南アジア大陸部までの言語、文献及びそれらの文化的背景について研究します。
 The Japanese and Asian Languages and Cultures Program consists of Japanese Language, Japanese Culture, and Asian Languages and Culture units.
 In the Japanese Language unit, students conduct research on the Japanese language focusing mainly on modern and contemporary Japanese. The relationships between Japanese and foreign languages are also emphasized.
 In the Japanese Culture unit, students conduct research on traditional Japanese culture, and culture and society of modern and contemporary Japan.
 In the Asian Languages and Culture unit, students engage in research on the languages, literatures and cultures that span from Central Eurasia to the southeastern Asian continent.

授業担当専任 スタッフ Academic Staff Profiles (2019年度担当予定 領域別アルファベット順)

日本語 Japanese Language

福田 嘉一郎 (ふくだ よしちろう) Yoshihiro FUKUDA
 ●准教授/Associate Professor

日本語の文法の研究を行っている。特に近代語という観点に基づき、中世から現代に至る日本語を主な研究の対象としている。
 Studies in Japanese grammar (syntax, morphology)

岩男 孝哲 (いわお たかのり) Takanori IWAO
 ●准教授/Associate Professor

現代日本語の文法を主に研究している。特に、話し言葉に見られる形式の意味、そしてその意味の多様性(とその多様な意味の間のつながり)に関心がある。最近では、会話において話題を導入する形式や引用表現を主な研究対象としている。
 Studies in modern Japanese grammar (syntax, semantics)

中井 幸比古 (なかい ゆきひこ) Yukihiko NAKAI
 ●教授/Professor

日本語の音声・音韻に関する研究、また、方言・社会言語学研究を行っている。日本語学習者の音声・音韻にも興味を持つ。
 Japanese Linguistics (Phonetics, Phonology, Dialectology, Sociolinguistics)



日本文化 Japanese Culture

馬淵 美帆 (まぶち みほ) Miho MABUCHI
 ●准教授/Associate Professor

日本絵画史、特に中世から近世のそれを主な対象として研究している。
 History of Japanese Paintings (medieval and early modern times)



山本 昭宏 (やまもと あきひろ) Akihiro YAMAMOTO
 ●准教授/Associate Professor

メディア文化史、歴史社会学研究。核エネルギーに関する日本人の認識を、新聞・雑誌・漫画・映画・小説などの様々なメディアに注目して研究している。それに基づいて、日本の現代文化との比較研究も行っている。
 History of media culture. Historical Sociology

アジア言語文化 Asian Languages and Cultures

林 範彦 (はやし のりひこ) Norihiko IIYASASHI
 ●教授/Professor

言語学専攻。専門領域は東アジア・東南アジア大陸部の諸言語である。中国雲南省で話されるチベット・ビルマ系言語であるチノ語の記述言語学的研究を中心に、東南アジア大陸部北部地域(タイ文化圏)の諸言語の地域言語学的研究を行っている。フィールドワークを手法とする記述言語学・言語類型論・歴史言語学(比較言語学・言語接触論)からこれらの諸言語にアプローチしている。また記述言語学と言語理論(生成文法・認知言語学等)の有機的な連携にも強い関心がある。
 Tibeto-Burman Linguistics and Southeast Asian Languages

最近の修士論文等のテーマ Recent Master's Thesis Subjects

- 日本語の格助詞「に」「に」の交替現象 —韓国語の格助詞「-을/를」「-에」の交替と対照して—
- 日本語の二重否定表現とモダリティ
- 日本語連体修飾節の「ル」「タ」 —中国人学習者による誤用調査から—
- 近畿地方を中心とする、日本人母語話者と外国人日本語学習者の「サセテイタク」に関する研究
- 指示詞の同一指示性に基づく従属節中の省略現象についての考察
- 現代漫画のオノマトペについて —ジャンル別の異同を中心に—
- 複合名詞の後部要素のアクセント型保存について —連濁現象との関係を中心に—
- あいづちの教育実態に関する考察 —教科書と会話分析を通して—
- 日本語授受動詞と中国語「給」の対照研究
- 依頼表現に関する日中対照研究
- 漢語寧徳方言の音声・音韻に関する考察 —九都鎮の調査に基づいて—
- 宮崎駿作品に描かれたジェンダー観 —「もののけ姫」、「千と千尋の神隠し」、「ハウルの動く城」を手がかりに—
- 現代マンガの表現機構:マンガ実作者の視点から
- 相模文化の変容 —国際化をめぐる一考察—

院生紹介 Message from a Student

—なぜ修士課程に進学しようと思いましたか?
 学生時代に外国語学習に興味を持ち、ベトナムの大学で4年間日本語を勉強しました。大学を卒業後、もっと言語学のことを勉強したい、日本語とベトナム語のことを研究したいと思い、日本留学を決めて進学準備を始めました。
 —神戸市外国語大学の修士課程を選んだ理由を教えてください。
 日本アジア言語文化専攻の先生たちが東南アジアの言語研究をされていることを知り、自分が行いたい日越研究指導を受けることができると思いました。また、神戸市外大の図書館には多言語の本や資料文献などが多量にあり、院生の研究室にはパソコンはもちろん充実した研究環境と思ったからです。

—入学する前と後で大学院に対するイメージはどのように変わりましたか?
 大学院に入学する前は神戸市外大で1年間外国人研究生として勉強しました。授業を受けて、言語の基礎知識を身につけながら修士課程試験を準備しました。入学後は授業の発表や研究の中間発表など、結構忙しく時間管理も大変ですが、先生方がいつも熱心にアドバイスをしてくださりとてもありがたいです。



ド タイ キム サー (2年)
 Do Thi Kim Sa